

年 報

—令和 3 年度—

2022

大磯町郷土資料館

OISO MUNICIPAL MUSEUM

はじめに

令和3年度大磯町郷土資料館年報を刊行いたします。

令和元年度末から社会に大きな影響を与え始めた新型コロナウイルス感染症は、令和3年度も感染拡大の波を繰り返しました。前年度の3月21日に臨時休館が終わり、ワクチン接種が進む中、感染拡大防止策として休館をしなくてもよい状況になったかと考えていたところ、8月に感染が拡大し、8月24日から3度目の臨時休館を実施しました。この休館に合わせて、予定していた企画展とミニ企画展を中止するなど、前年度に続き事業の制約を受ける一年となりました。

しかし、このような状況においても、比較的状況が落ち着いている期間に企画展を2回実施し、いずれも好評を得ることができました。また、郷土資料館開館32年にして、7月31日に来館者数100万人を達成することもできました。

前年度も同じでしたが、当館における資料収集件数はコロナ前と比較して大差なく、今回実施できた企画展に対する来館者の反応を見ても、地域の貴重な資料に対するニーズは確実にあると言えます。特に、当年度に久しぶりにテーマとした地域で活躍した画家に関する企画展は、多くの方に観覧いただきました。収蔵資料だけでなく、ご協力いただける範囲で、地域の著名人を紹介することもまた、当館の役割であることを改めて認識する企画となりました。今後とも、地域の文化活動を担う施設として事業を展開していきたいと考えていますので、引き続き、当館の活動にご理解・ご協力をお願いいたします。

大磯町郷土資料館

目 次

〔事業報告〕

大磯町郷土資料館運営	4
・組織および職員	4
・協議会	4
・予算	4
・観覧者数	4
大磯町郷土資料館施設管理	6
・維持管理	6
・施設使用	6
旧吉田茂邸（郷土資料館別館）施設管理	6
・維持管理	6
・施設使用	6
大磯町郷土資料館学芸活動	7
・企画展	7
・学級・講座	10
・明治 150 年記念冊子作成委託	11
・博物館実習	11
・研究活動	11
・博物館資料の整備	12
・刊行物	12
・視察・見学対応	13
・取材対応	13
・レファレンス対応	13
・ホームページを活用した情報発信	14
・博物館資料の収集、整備、利用	14
・文献資料収集状況	17
旧吉田茂邸（郷土資料館別館）学芸活動	19
・ミニ企画展	19
・講座	20
・講演会	20
・博物館資料の整備	21
・調度品等の整備	21
・刊行物	21
・視察・見学対応	21
・取材対応	21
・レファレンス対応	22
学芸員の調査、研究、普及活動	22

〔研究報告〕

大久保家資料「覚書」にみる小田原藩 伊藤 匠	31
---------------------------	----

事業報告

大磯町郷土資料館運営

■ 組織および職員

教育長 熊澤久	教育部長 大槻直行	生涯学習課長 谷河かおり	郷土資料館 館長 國見徹	副館長/学芸員 北水慶一 主査/ 仲手川登三男 主任主事/学芸員 富田三紗子 主事/学芸員 久保庭萌
------------	--------------	-----------------	-----------------	---

会計年度任用職員/学芸員	鈴木一男、飯野友紀、中原園子、伊藤匠、村田聡美、 鷹野真子 (R3/4/1-R4/3/31)
会計年度任用職員/司書	今井沙穂里
会計年度任用職員/自然観察指導員	高山優美
会計年度任用職員	川下多恵子、佐藤瑞香、西田裕子、花輪弘枝、若栗尊子、 鈴木道子、山本陽子、石井道朗 (R2/4/1-)

■ 協議会

<委員の構成>

- ・委員長/ 近藤英夫 (学識経験者)
- ・副委員長/ 西川武臣 (学識経験者)
- ・委員/ 柴田紳一 (学識経験者)、古川元也 (学識経験者)、原田康弘 (学校教育関係者)、
中島美江 (社会教育関係者)、大倉祥子 (観光関係者)、曾根田玲子 (観光関係者)、
上野広子 (社会教育関係者)

<協議会の開催>

- ・第1回/令和3年7月21日 議題1 令和2年度事業報告について
議題2 令和3年度事業について
- ・第2回/令和3年11月17日 議題1 令和3年度事業進捗状況について
- ・第3回/令和4年3月23日 議題1 令和3年度事業報告について
議題2 令和4年度事業について

■ 予算

<当初予算の推移>

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
金額	147,274千円	84,551千円	98,941千円	92,462千円	88,987千円	133,457千円

<令和3年度歳入決算額 (一部のみ) >

- ・旧吉田茂邸観覧料 7,267,170円
- ・吉田茂関連製品売上代 56,200円
- ・旧吉田茂邸刊行物売上代 83,420円
- ・郷土資料館刊行物売上代 297,970円

<令和3年度歳出決算額>

事業	郷土資料館 運営事務事業	郷土資料館 維持管理事業	郷土資料館 学芸活動事業	教育普及・ 企画展事業	郷土資料館 施設整備事業
金額	1,565,483円	13,181,751円	5,226,540円	970,337円	46,068,000円
事業	旧吉田茂邸 運営事務事業	旧吉田茂邸 維持管理事業	旧吉田茂邸 学芸活動事業	旧吉田茂邸 利活用推進事業	計
金額	10,049,689円	7,416,843円	2,031,875円	231,730円	86,742,248円

□職員給与 (5人分) 32,819,605円 ■歳出合計 119,561,853円

■ 観覧者数

<郷土資料館観覧者数の推移>

単位：人、日

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	累計(昭和63年~)
入館者数	35,826	28,900	22,201	11,053	24,091	1,017,313
1日平均/ 開館日数	122 / 294	97 / 299	82 / 271	64 / 173	94 / 257	109 / 9,302

※令和元年度は令和元年 10 月 12 日、13 日を台風 19 号のため、令和 2 年 3 月 7 日から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

※令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度に続き令和 2 年 6 月 15 日まで、令和 3 年 1 月 9 日から 3 月 21 日まで臨時休館

※令和 3 年度は令和 3 年 7 月 3 日を大雨のため、7 月 6 日から 11 日までは館内燻蒸のため、8 月 24 日から 9 月 30 日までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

《お詫び》

令和 2 年度年報に掲載した累計入館者数は、正しくは 993,222 人でした。令和 3 年度に計上した累計入館者数は、正しい数字に直して計上しています。

＜郷土資料館の月別観覧者数＞

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
入館者数	1,874	2,681	1,511	750	901	0	
1日平均	75	107	60	39	50	0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	1,766	2,526	1,706	3,262	5,064	2,050	24,091
1日平均	68	105	74	142	220	79	94

※上記注釈の期間中、臨時休館

＜旧吉田茂邸（郷土資料館別館）の月別観覧者数＞

単位：人

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
観覧者数	大人（個人）	1,377	1,990	1,012	563	440	0	
	大人（団体）	0	0	0	0	0	0	
	中学生・高校生（個人）	21	43	20	9	26	0	
	中学生・高校生（団体）	0	0	0	0	0	0	
	小学生以下	49	282	37	26	43	0	
	障がい者／介護者	78	88	63	37	13	0	
	減免対象者	17	28	27	36	13	0	
計	1,542	2,431	1,159	671	535	0		
1日平均	62	97	46	27	30	0		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
観覧者数	大人（個人）	1,388	2,072	1,274	1,091	1,226	1,373	13,806
	大人（団体）	50	59	64	20	121	73	387
	中学生・高校生（個人）	9	20	8	7	26	40	229
	中学生・高校生（団体）	0	0	0	0	0	0	0
	小学生以下	47	55	28	41	36	47	691
	障がい者／介護者	75	88	48	56	56	69	671
	減免対象者	31	22	48	2	153	14	391
計	1,600	2,316	1,470	1,217	1,618	1,616	16,175	
1日平均	62	97	64	53	70	62	62	

※令和 3 年 7 月 3 日は大雨のため、8 月 24 日から 9 月 30 日までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

大磯町郷土資料館施設管理

■ 維持管理

<委託業務>

- ・清掃委託／(株) 湘南県央サービス
- ・警備委託／(株) 全日警 横浜支社
- ・昇降機保守委託／ダイコー (株) 横浜営業所
- ・敷地管理委託／(財) 神奈川県公園協会
- ・中央監視装置保守点検委託／日本電技 (株) 横浜支店
- ・空調設備第 1 期改修工事管理委託／(資) アーバンクルー
- ・空調機器給水設備保守委託／(株) 郵生
- ・自家用電気工作物保守委託／荻野電気管理事務所
- ・消防用設備保守委託／(株) 三栄防災
- ・自動ドア保守委託／(株) 神奈川ナブコ 厚木支店
- ・燻蒸業務委託／関東港業 (株) 横浜営業所

<修繕>

- ・下水道柵蓋取替／(有) 岩田土木管工
- ・排煙窓・ハンドルボックス交換／(株) 足柄防災
- ・トイレ手洗い場等自動水栓交換／(有) 岩田土木管工
- ・高圧コンデンサー交換／(株) 志村電気
- ・自動ドア鍵交換／(株) 神奈川ナブコ
- ・事務室空調機ファンモーター交換／(有) 岩田土木管工
- ・室外機置場扉交換／(有) 山本建設

<工事>

- ・空調設備第 1 期改修工事／(有) 岩田土木管工

■ 施設使用

<施設使用月別件数>

単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修室	3	2	6	4	6	0	7	6	4	3	2	2	45

※令和 3 年 7 月 3 日は大雨のため、7 月 6 日から 11 日までは館内燻蒸のため、8 月 24 日から 9 月 30 日までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

旧吉田茂邸（郷土資料館別館）施設管理

■ 維持管理

<委託業務>

- ・清掃委託／(株) 郵生
- ・昇降機保守委託／(株) 日立ビルシステム 横浜支社
- ・消防用設備保守委託／モリタ宮田工業 (株)
- ・警備委託／(株) 全日警 横浜支社
- ・空調設備保守点検委託／(株) 郵生
- ・敷地管理委託／(財) 神奈川県公園協会

<修繕>

- ・軒樋調整工事／松井建設 (株) 東京支店
- ・空調機ファンベルト交換／(株) 郵生

■ 施設使用

<施設使用月別件数>

単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金の間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研修室	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3

※令和 3 年 7 月 3 日は大雨のため、8 月 24 日から 9 月 30 日までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

■ 企画展

春季企画展「旧高麗寺ゆかりの神像、仏像修理—出来！高来神社神像保存処理」

期 間／令和3年4月17日（土）～6月20日（日）

開場日数／54日間

会 場／郷土資料館 企画展示室

出品点数／46点

料 金／無料

観覧者数／4,871人

趣 旨／平成12年に発見された高来神社の神像11軀については、鎌倉時代の記銘が確認され、文化財としての価値が非常に高い。発見された後、郷土資料館において寄託資料として管理し、長年、保存処理を続けてきた。令和元年度に全ての保存処理が完了したことを報告するため、全ての神像を一堂に公開し、併せて近年行われてきた旧高麗寺に由来する仏像の修復について紹介する。なお、本企画展は、令和2年度に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響によって延期して実施するものである。

内 容／高来神社の神像11軀を中心に、旧高麗寺の由来の神像・仏像の概要や、修復方法・技術を紹介した。

(1) 高来神社木造神像群の発見

神像群が発見された時の状況を、一緒に発見された部材を展示しながら解説した。

(2) 高来神社木造神像群

高来神社木造神像群を形態などによって分類できる3つの分類ごとに展示し、保存処理の方法を解説した。

(3) 旧高麗寺ゆかりの仏像修理

近年修理が行われた慶覚院木造地藏菩薩坐像及び慶覚院木造仁王立像を旧高麗寺に由来する仏像として、その修理方法について写真パネルで紹介した。

(4) 旧高麗寺と神像・仏像

高麗寺の概要と、展示で紹介した仏像を含め、現存する仏像と高麗寺の関係を、写真パネルによって解説した。

関連企画／新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、会場において担当者が展示内容を解説する展示解説を見合わせた。代替企画として、解説動画を6本作成し、ウェブサイトで公開した。会期中の再生回数は、6本の合計で659回であった。

(担 当) 富田



秋季企画展「資料と証言に見る大磯と戦争」

※令和3年10月16日（土）～12月16日（日）に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した。ただし、図録は刊行し、代替事業としてホームページにおいてウェブ展示を公開した。また、展示内容をポスターにまとめ、今後、定期的にミニ企画展を実施することにより公開することを予定している。

趣 旨／終戦75年を迎え、大磯と近代の戦争をテーマに、関係する所蔵資料を展示して、戦時中の大磯の様子や、戦争が大磯という地域や住民へ与えた影響を紹介する。また、近年、郷土資料館では空襲体験者への聞き取り調査や、防空壕及び旧日本軍の陣地壕跡の調査を実施してきた。本企画展では、これらの調査結果をまとめ、発表することも目的とする。なお、本企画展は、当初、令和2年度に実施することを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて令和3年度に実施するものである。

内 容／

(1) 近代化と戦争

世界大戦が起こる前史として、徴兵制度の導入や、西南戦争、日清・日露戦争が大磯へ与えた影響について、町内に現存する忠魂碑や町役場の公文書などを展示することによって紹介する。

(2) 生活の中の戦争

明治・大正・昭和初期の社会は、軍隊や戦争が身近な存在であり、軍隊や戦争の存在は社会の前提でもあった。導入期からより制度化された徴兵制度の仕組みや、在郷軍人会・愛国婦人会などの軍隊や戦争にかかわる組織の活動、教育と戦争の関係などを、所蔵資料を展示することによって解説する。

(3) 大戦下の大磯

第一次世界大戦の勃発により、世界の多くの国家が参戦する世界大戦が現実のものとなった。また、空爆や化学兵器の使用は大量殺戮を生み出し、戦争そのものの性質を変えた。そのような状況を経て再び世界の多くの国家が参戦する第二次世界大戦が勃発し、太平洋戦争では大磯も大きな影響を受けた。この戦時中に大磯の住民に起こった出来事を、資料や証言を検証することによってまとめる。主として、大磯から出征した人々について、大磯に被害をもたらした空襲について、大磯に築かれた旧日本軍の陣地壕について、大磯における戦時下の暮らしについての4つの項を軸とする。戦時下の暮らしについては、大磯が別荘地であったという特徴から、記録が詳細に残る三井別邸「城山荘」の様子や、吉田茂の様子も含めて解説する。

(担 当) 富田・久保庭

企画展「堀文子と大磯」

期 間／令和4年1月22日(土)～2月20日(日)

開場日数／25日間

会 場／郷土資料館 企画展示室・廻廊

出品点数／約100点

料 金／無料

観覧者数／6,499人

共 催／一般財団法人 堀文子記念館

趣 旨／画家の堀文子は大磯に居宅を構え、50年以上、当地を拠点として活動した。令和4年2月5日に没後3年を迎えるにあたり、大磯町における初の展覧会として、初公開の下図や作品のモチーフとなった資料を出品する。

内 容／大磯で描いた堀文子の本画やスケッチ、下図、作品のモチーフとなった資料を展示する。

(1) 大磯の景色と草花

大磯の景色やアトリエで描かれた作品を展示した。

(2) 旅の思い出～モチーフになった宝物～

海外の民芸品などから着想を得た作品を展示した。

(3) 挑戦と創造

日本画の画風のこだわらない、自由な発想を主とする作品を展示した。

(4) 絵本や挿絵・装丁の仕事

絵本や雑誌の原物と掲載された原画を展示した。

(5) 下図初公開

大磯のアトリエで多数の作品が生み出されたことを伝えるため、作品の下図を初公開した。

(6) その他

昇降台にアトリエの一部を再現し、作品を制作する際に使用した顕微鏡など、大磯のアトリエに保管されているさまざまな道具や、堀氏が大切にしていた民芸品などを展示した。写真家の飯島幸永氏が撮影した堀氏のポートレートなどを展示し、休憩室を利用してDVD『堀文子 命の不思議』を放映した。廻廊では、雑誌『サライ』に連載された堀氏の記事「命といふもの」や「堀文子ホルトノキの会」の紹介を展示した。

その他／一般財団法人堀文子記念館が作成したポストカード及びクリアファイル、書籍、カレンダーを、展示期間中に郷土資料館で販売した。売上点数は、ポストカード4,163枚、クリアファイル817枚、書籍217冊、カレンダー28点。

(担 当) 國見・富田



ミニ企画展「大磯と東京オリンピック 1964」

期 間／令和3年6月2日(水)～8月31日(火)

※オリンピック関係資料の展示は、7月14日(水)から

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため8月22日(日)まで開催

開場日数/62日間

会場/郷土資料館 廻廊

出品点数/約20点

料金/無料

観覧者数/3,162人

趣 旨/東京オリンピック2020が開催されるにあたり、昭和39年に開催された東京オリンピックと大磯に関するエピソードを紹介する。

内 容/昭和39年に開催された第18回オリンピック競技大会では、東京が主要会場となり、大磯ではヨット競技の選手を対象とした選手村分村が開かれ、聖火リレーが町内を走った。大会の概要、大磯町内を走った聖火リレーの様子、選手村大磯分村、大会を開催するにあたって行われた美化運動などについて、郷土資料館が所蔵する写真などを活用し、ポスターにまとめて展示した。また、当館が所蔵する聖火のトーチホルダーや、町内在住の泉脇茂太氏が所蔵されているオリンピック関係資料も展示した。

(1) 1964年という時代

第18回オリンピック競技大会が開催されることになった経緯や、当時の社会状況、大磯町の様子などを解説した。

(2) 東京オリンピック1964

大会の概要を解説した。

(3) 大磯を走った聖火リレー

大磯町内を聖火リレーがどのように走ったかを、当時の写真を交えて紹介した。

(4) オリンピック選手村大磯分村

大磯ロングビーチホテル(当時)に開かれた選手村について解説した。

(5) オリンピックの開催に向けて

オリンピックを開催するにあたり、大磯町内で行われた美化運動などの活動を解説した。

(担 当) 富田

※ミニ企画展「大磯の災害」を、令和3年9月2日(木)～10月31日(日)に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、中止した。

大磯自然発見コーナー

趣 旨/大磯町内で採集できる自然資料などを館内に展示し、自然観察の参考となる情報を提供する。自然環境に関心を高めるきっかけづくりにつなげる。

【第1回】「身近に見られる鳥の巣」

期 間/令和3年4月14日(水)～6月30日(水)

出品点数/約3点

内 容/自然界ではこの季節、さまざまな鳥たちがつがいになり、巣を作り、繁殖を始める。私たちの周りでもその様子を観察することができる。実物の巣を展示し、それぞれの巣や鳥についての特徴を伝えた。

【第2回】「セミのぬけがらはかせになろう！」

期 間/令和3年7月13日(火)～9月30日(木)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため8月22日(日)まで開催

出品点数/約12点

内 容/身近に見られるセミの抜け殻(6点)、セミの標本(6点)を展示し、セミの抜け殻を見分けることができるようにした。また、見つけたセミの抜け殻の数を表にして、セミの数を見比べることができるようにした。

【第3回】「さがしてみよう!木の実・草の実」

期 間/令和3年12月11日(土)～令和4年2月27日(日)

出品点数/約22点

内 容/身近にみられる実について、実物を展示し、その形や色などの特徴を紹介した。詳しく観察できるよう、展示コーナーに観察用のルーペを設置した。

(担 当) 高山・村田

■ 学級・講座

<古文書裏打ちクラブ>

期 日／令和3年4月17日(土)、5月22日(土)、6月19日(土)、7月17日(土)、10月16日(土)、11月20日(土)、12月18日(土)、令和4年1月22日(土)、2月19日(土)、3月19日(土)
※8月21日、9月18日は新型コロナウイルス感染拡大防止による休館のため中止

場 所／郷土資料館 研修室

講 師／鶴飼 レイ子 氏、中村 ふぢ 氏、吉原 悦子 氏

会員人数／12人

参加人数／延74人

内 容／裏打ちの技術を学びながら、当館で所蔵している古文書の裏打ちを行うワークショップ。博物館資料の整理というボランティア的な性格を持つ活動として位置付け、平成16年度から継続している。活動内容は、昨年度に引き続き、襖に下張りされていた古文書の資料化を進める。なお、会員は、随時募集し、本年度は3名が入会し、2名が退会した。

(担 当) 富田

<古文書解説クラブ>

期 日／令和3年4月3日(土)、5月8日(土)、6月5日(土)、8月7日(土)、9月4日(土)、10月2日(土)、11月6日(土)、12月4日(土)、令和4年1月8日(土)、2月5日(土)、3月5日(土)

※7月3日は大雨のため中止

場 所／郷土資料館 研修室

会員人数／11人

参加人数／延89人

内 容／郷土資料館が所蔵する古文書を会員と共に解説することにより、大磯の歴史を学び、古文書資料の活用を図ることを目的として、平成24年度から毎月第一土曜日を原則として活動を始めた。町指定文化財である大磯宿小島本陣資料の休泊帳を解説し、翻訳文を刊行することを目指している。また、引き続き、会員有志で毎週金曜日の活動を行い、大正期の大磯町の助役日誌を解説している。今年度は、大磯町文化財調査報告書第52集として「御大名衆帳」(大磯宿小島本陣資料8)の翻刻文を、資料館資料20として「大磯町助役日誌」大正6年分(小見滋夫家旧蔵資料1)の翻刻文を刊行した。なお、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、状況に応じて、会員が解説した解説文を担当者が添削する形式に変更しながら活動した。

(担 当) 富田

<写真整理クラブ>

期 日／令和3年4月11日(日)・25日(日)、5月16日(日)・30日(日)、6月13日(日)・27日(日)、7月25日(日)、8月15日(日)、10月10日(日)、11月14日(日)・28日(日)、12月12日(日)・26日(日)、令和4年1月16日(日)・30日(日)、2月13日(日)・27日(日)、3月13日(日)・27日(日)

※7月11日は燻蒸業務のため休会

※8月29日、9月12日・26日は新型コロナウイルス感染拡大防止による休館のため中止

※10月24日は担当者の都合により中止

場 所／郷土資料館 研修室

会員人数／4人

参加人数／延68人

内 容／郷土資料館が所蔵する写真を会員と共に整理し、資料の活用を図ることを目的として、平成28年度から毎月第二、第四日曜日を原則として活動を始めた。今年度も引き続き、町広報担当者が撮影した写真のフィルムをスキャンし、デジタル化する。また、必要に応じてフィルムの清掃を行う。本年度は会員1名を募集し、1名の入会があった。今年度は、ネガフィルムのアルバム全28冊の内、10冊目(資料番号N10)まで、フィルムをデジタル化した。

(担 当) 富田

<海の教室 海の森のお話と「海の万華鏡」づくり>

期 日／令和3年7月28日(水)

場 所／郷土資料館 研修室

講師／高山優美（当館会計年度任用職員）・村田聡美（当館会計年度任用職員）
 参加人数／21人（10時30分～正午の部11人、14時～15時30分の部10人）
 内容／特定の学問分野にかかわらず「海」をテーマにさまざまなことを体験し、楽しみながら海岸環境や海産生物について知識を深めることを目的に平成12年度から実施している。令和3年度は海洋に関するクイズやDVD鑑賞を行い、標着海藻チップを使った万華鏡を作成した。
 （担当）高山・村田

■ 明治150年記念冊子作成委託

業務内容／明治150年記念事業を契機に、子どもたちの心に残り、いつまでも郷土を愛する心を持ち続けることのできる本を作成する。
 契約期間／令和3年10月28日～令和4年12月23日
 請負者／（株）かまくら春秋社

■ 博物館実習

令和3年度は3大学より3名の学生を受け入れた。実習期間は8月3日から7日及び7月16日（事前ガイダンス）、8月27日（課題等提出）の計7日間とした。

実習課程は、資料の整理などの実践的な作業、展示作成、学級活動の体験とした。展示作業では、常設展示室の「東海道大磯宿」コーナーにおいて、小島本陣資料の展示替えを行った。

<実習生>

佐藤晶（日本女子大学）、安田健人（青山学院大学）、間優人（駒澤大学）

<課程>

月日	曜日	午前	午後
7月16日	金		ガイダンス／館内見学
8月3日	火	講義（博物館活動の概要）	旧吉田茂邸の見学 他
8月4日	水	歴史資料の整理	
8月5日	木	資料梱包	資料梱包／特殊資料の取り扱い
8月6日	金	常設展示室展示替え（歴史資料の展示）	
8月7日	土	学級活動の運営（古文書解読クラブの参加）	
8月27日	金	課題提出	

（担当）富田・久保庭・國見

■ 研究活動

戦時中の大磯に関する調査

期日／令和3年4月3日（土）、11月30日（火）、12月14日（火）、3月24日（木）
 内容／平成27年に終戦70年を迎え、戦争の記録が失われつつある中、大磯の戦時中の状況を把握することを目的として、平成28年度から調査を始めた。調査内容は、町内で空襲などの戦争を体験された方に対する聞き取り調査及び町内に築かれた防空壕などの実測調査、その他の必要な調査である。本年度は、昨年度に続き、西小磯に所在する防空壕・陣地壕の実測調査などを行った。調査にあたっては当館職員の他、市民協力者として、市原誠氏、藤田尚志氏、一石悠氏にご協力いただいた。
 （担当）富田・久保庭

■ 博物館資料の整備

<歴史資料の整理>

平成30年度から、歴史資料を段階的に整理することとし、整理作業を進めている。本年度は、次のとおり整理を進めた。

文献資料（古文書等）

・大磯町史編纂時の整理済み資料の再調査及び未整理資料の整理を行った。受入番号2015-0202他まで完了。

受入番号	資料群名	点数	受入番号	資料群名	点数
1988-0301	外川一実家旧蔵資料	14	2012-0202	原田優人氏旧蔵資料	9
1998-0905	西山敏夫家旧蔵資料	155	2012-0204	小林佳代子氏旧蔵資料	37
1999-1002	伊東宗兵衛家文書	419	2012-0420	小見滋夫氏旧蔵資料	10
2000-0308	加藤登思枝家旧蔵資料	50	2012-0812	上森直美氏旧蔵資料	8
2003-0403	千野英子家旧蔵資料	385	2013-0301	原利子家旧蔵資料	2
2003-0702	藤田輝子家旧蔵資料	7	2013-0403	県立湘南青少年の家関係資料	6
2005-0601	長島栄治家旧蔵資料	42	2014-0401	後藤勲氏旧蔵資料	493
2010-0601	出縄政美家旧蔵資料	1,100	2014-0701	二挺木春行家旧蔵資料	61
2011-0602	石井清吾氏旧蔵資料	10	2014-1101	宮代梅太郎家旧蔵資料	35
2011-1203	二挺木恵氏旧蔵資料	4	2015-0202 他	中村藤雄家旧蔵資料	1,085

コレクション資料

- ・吉田茂関係資料を新たに141点受け入れ、所蔵点数が4,640点になった。
- ・吉田茂関係資料の内、吉田家旧蔵資料(受入番号2017-0309)の書簡資料107点の翻刻作業を進めた。
- ・島崎藤村関係資料を新たに1点受け入れ、1点購入し、所蔵点数が133点になった。
- ・安田鞞彦関係資料を新たに4点受け入れ、所蔵点数が12点になった。
- ・林董関係資料を整理した。総点数70点。
- ・ホームページの収蔵資料データベースにて、伊藤博文関係資料の目録及び画像の一部を公開した。

美術品

- ・銃砲刀剣類を新たに3点受け入れ、所蔵点数が55点になった。
 - ・色紙を新たに1点受け入れ、所蔵点数が23点になった。
 - ・彫刻を新たに1点受け入れ、所蔵点数が10点になった。
 - ・器類を新たに6点購入し、所蔵点数が23点になった。
 - ・その他貴重資料を新たに5点受け入れ、所蔵点数が12点になった。
- ※所蔵点数の合計点数には、未登録であった資料の登録によって増えた点数も含む。
※その他貴重資料については、令和2年度受入分も含む。

寄託資料

- ・寄託番号56二宮家資料を整理した。総点数6,337点。

絵葉書

- ・新たに5点受け入れ、所蔵点数が924点になった。

写真

- ・ホームページの収蔵資料データベースに、大磯町広報担当撮影写真の画像を4シリーズ公開した。公開した画像の件数は、計18シリーズ。
(担当) 富田・久保庭・飯野・中原・鷹野・伊藤

■ 刊行物

<図録・冊子>

- ・『年報—令和2年度—』 A4判40頁 400部 (令和3年8月刊)
- ・企画展図録『資料と証言に見る大磯と戦争』 A4判40頁 800部 (令和3年10月刊)
- ・資料館資料20『大磯町助役日誌(大正六年一月～一二月)』 A4判84頁 500部 (令和3年11月刊)
- ・『Report—大磯町郷土資料館だより』42 A4判8頁 800部 (令和4年3月刊)

<チラシ・パンフレット>

- ・企画展『堀文子と大磯』チラシ A 4判両面 10,000部 (令和3年12月刊)
- ・企画展『堀文子と大磯』ポスター A 4判片面 200部 (令和3年12月刊)
- ・企画展『堀文子と大磯』パンフレット A 4判4頁 10,000部 (令和3年12月刊)

■ 視察・見学対応

<視察・見学の月別件数>

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視察	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
見学	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3

※令和3年7月3日は大雨のため、7月6日から11日までは館内燻蒸のため、8月24日から9月30日までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

<視察対応>

- ・国営昭和記念公園事務所／11月4日／2人(北水)
- ・茅ヶ崎市教育委員会／11月30日／5人(北水)

<見学対応>

- ・江ノ電沿線新聞社／6月16日／15人(富田)
- ・東京家政学院大学／2月8日／6人(國見)

■ 取材対応

<刊行物>

- ・タウンニュース 令和3年4月16日掲載「園舎に旧三井別荘の建材」(富田)
- ・タウンニュース 令和3年4月23日掲載「鎌倉時代の神像が復活」(富田)
- ・神奈川新聞 令和3年6月11日掲載「企画展『旧高麗寺ゆかりの神像・仏像修理』紹介記事」(富田)
- ・樫出版社『湘南スタイル』令和3年6月25日発行(久保庭・富田)
- ・タウンニュース 令和3年8月20日掲載「学芸員業務を体験」(富田)
- ・読売新聞 令和3年10月23日掲載「池田成彬の別荘 町有形文化財に一大磯町一」(北水)
- ・タウンニュース 令和3年11月5日掲載「旧池田邸(西園寺別邸跡)町指定有形文化財に」(北水)
- ・朝日新聞 令和4年1月14日掲載「企画展『堀文子と大磯』紹介記事」(富田)
- ・神奈川新聞 令和4年1月20日掲載「企画展『堀文子と大磯』紹介記事」(富田)
- ・タウンニュース 令和4年1月21日掲載「大河ゆかりの地各所に」(富田)
- ・タウンニュース 令和4年1月28日掲載「堀文子が愛した大磯」(富田)
- ・読売新聞 令和4年2月15日掲載「企画展『堀文子と大磯』紹介」(國見)
- ・東京新聞 令和4年2月16日掲載「企画展『堀文子と大磯』紹介」(富田)
- ・(株)サン・アート『月刊美術』「企画展『堀文子と大磯』の紹介」令和4年2月20日発行(富田)
- ・読売新聞 令和4年3月10日掲載「高来神社木造神像の県重要文化財指定について」(北水)
- ・タウンニュース 令和4年3月25日掲載「県重文に高来神社神像」(北水)

<テレビ>

- ・ケーブルテレビ『ワイド情報カフェ湘南館(令和3年4月20日初回放送)』「企画展『旧高麗寺ゆかりの神像・仏像修理』の紹介」(富田)
- ・ケーブルテレビ『ワイド情報カフェ湘南館(令和4年1月25日初回放送)』「企画展『堀文子と大磯』の紹介」(富田)
- ・NHK(令和4年1月22日取材)『番組名等未定』「企画展『堀文子と大磯』紹介」(國見)
- ・ケーブルテレビ『ワイド情報カフェ湘南館(令和4年3月22日初回放送)』「高来神社木造神像の県重要文化財指定について」(北水)

■ レファレンス対応

- ・令和3年4月1日／江戸見付・八坂神社・切通の開通について／個人(富田)
- ・令和3年4月9日／町内の神社について／個人(富田)
- ・令和3年4月13日／大磯式木製リールについて／(久保庭)
- ・令和3年5月19日／アオバトの鳴き声について／個人(村田)
- ・令和3年6月8日／ホテルが出る場所について／個人(富田)
- ・令和3年6月24日／大磯税務署について／税務大学校租税資料室(富田)
- ・令和3年6月29日／別荘の所在地について／個人(富田)

- ・令和3年7月20日～23日／島崎藤村所有の前掛けについて／個人（富田）
- ・令和3年7月21日～23日／二宮町の酒店に掲示されていた看板について／個人（富田）
- ・令和3年8月6日～7日／松本順別邸の場所等について／個人（富田）
- ・令和3年8月21日／江戸見付の位置について／個人（富田）
- ・令和3年8月19日～9月7日／鳴立庵に掲出している掛軸の解説／鳴立庵（富田）
- ・令和3年9月10日／大磯宿と平塚宿の距離について／個人（富田）
- ・令和3年10月8日／鳴立庵の五智如来の名称について／個人（久保庭）
- ・令和3年10月14日／雑誌『こよろぎ』の調査について／個人（富田）
- ・令和3年10月19日～20日／神明町の井戸の由来について／個人（富田・鈴木）
- ・令和3年11月30日～12月23日／鳴立庵保管の掛軸の解説／鳴立庵（富田）
- ・令和3年12月5日／メンデルソンの日本語表記について／個人（久保庭・鷹野）
- ・令和4年1月5日／日本料理に関する史資料の所蔵調査について／立命館大学（富田）
- ・令和4年1月12日／西小磯地区所有（寄託資料）の伊藤博文の刀について／個人（富田）
- ・令和4年1月16日／シャチガミについて／個人（富田）
- ・令和4年2月4日／大磯で起こった災害について／県立大磯高等学校（富田）
- ・令和4年2月9日／鷹取神社の十三仏について／個人（富田）
- ・令和4年2月17日～18日／旧高麗寺の遺構調査について／個人（富田）

■ ホームページを活用した情報発信

<ホームページの更新>

- ・休館情報などを公開した。
- ・収蔵資料データベースで公開する資料を追加した。
- ・「100年前の大磯～小見助役の一日～」を更新した。
- ・吉田茂関連資料の紹介を更新した。
- ・ミニ企画展のポスターを公開した。

<ブログの更新>

- ・年間を通して、郷土資料館は21回、旧吉田茂邸は23回更新した。

<SNSの利用>

- ・Twitterは、年間を通して123回投稿し、818件の反応があった。フォロワー数は1,227件。
- ・Facebookは、年間を通して121回投稿し、738件の反応があった。フォロワー数は286件。
- ・Instagramは、年間を通して90回投稿し、2,434件の反応があった。フォロワー数は159件。

※フォロワー数は、令和4年5月26日確認。

■ 博物館資料の収集、整備、利用

<寄贈資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2021-0402	R3.4.21	吉田茂邸炎上写真	一括	波多野浩二
2021-0501	R3.5.3	ガウン（吉田茂着用）	1	関根昌黛
2021-0601	R3.6.18	屏風 ほか（吉田茂関係資料）	一括	竹内京三
2021-0602	R3.6.27	聖火リレー役員腕章 ほか	2	飯田敏之
2021-0603	R3.6.30	扁額（千曲川旅情の詩）	1	大内守雄
2021-0702	R3.7.13	図書『アスター追悼シェーン動胤親睦会』（吉田茂関係資料）	1	山本セイ
2021-0703	R3.7.21	吉田茂胸像	1	柴田桂子
2021-0801	R3.8.12	国民服、古文書、御船祭装束、漁具 ほか	一括	内田もと子
2021-0803	R3.8.24	吉田茂国葬儀記念メダル	1	増田氏
2021-1002	R3.10.22	安田鞞彦関連図書、写真、スケッチ、 吉田茂写真、米寿挨拶状 ほか	一括	安田由紀夫
2021-1101	R3.11.5	昆虫標本 ほか	53	木村純子
2021-1102	R3.11.14	ヒヨドリの巣、カワラヒラの巣	4	波多野収三
2021-1102	R3.11.14	ブリキの看板	5	波多野収三
2021-1202	R3.12.9	吉田茂関係資料一括	一括	竹内京三

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2021-1203	R3.12.15	吉田茂色紙	1	高橋三郎
2021-1204	R3.12.16	念仏講道具、大和講道具、従軍関係資料（軍隊手帳ほか）	一式	内田もと子
2021-1204	R3.12.16	従軍関係資料（ノートほか）	一括	内田もと子
2022-0201	R4.2.15	記念杯ほか	12	瀬川啓子
2022-0201	R4.2.15	ピンバッチ、地曳水揚帳 ほか	16	瀬川啓子
2022-0301	R4.3.3	古文書、絵葉書	一括	高橋正巳
2022-0302	R4.3.12	写真	一括	斉藤一郎
2022-0303	R4.3.12	書籍、建具道具 ほか	一括	古瀬恭良
2022-0304	R4.3.16	写真、コンタクトプリンター	47	遠藤勝彦
2022-0305	R4.3.17	刀剣	2	高橋正巳
2022-0306	R4.3.27	書幅（吉田茂、大久保利通、尾崎行雄）	4	白幡晶

<移管資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2021-0403	R3.4.27	公函写	1	美化センター
2021-0802	R3.8.17	国府小学校関係資料	一括	国府小学校
2021-1001	R3.10.20	産業観光課行事等関係資料(写真など)	一括	産業観光課
2022-0101	R4.1.26	刀剣	1	大磯警察署（大磯小学校）

<購入資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2021-0701	R3.7.13	こよろぎ皿（こよろぎ焼）	5	古美術はりま
2021-0701	R3.7.13	振出し（こよろぎ焼）	1	古美術はりま
2021-1201	R3.12.9	有島生馬書	1	福地書店

<寄託資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2	S63.6.1	山高帽 他	一括	西小磯東区長
5	S63.9.2	四季耕作図 他	11	個人
16	H1.12.9	子ども会旗・七夕資料	一括	西小磯西子ども会
17	H1.8.8	菊池重三郎関係資料	1,510	個人
22	H4.4.1	稲荷講資料	一括	個人
23	H4.4.1	雛人形	一括	個人
28	H5.7.22	吉田茂杯 他	5	大磯中学校
30	H6.4.12	掛軸 他	一括	西小磯東区長・西小磯西区長
32	H7.9.12	獅子頭	2（1対）	裡道区長
35	H13.7.17	屏風 他	一括	南本町区長
37	H15.4.1	木造神像群	12	高来神社
39	H21.4.17	扁額 他	1	国府中学校
40	H21.12.24	伊藤博文書幅	1	個人
41	H22.2.1	大久保家資料	一括	個人
43	H23.6.29	掛軸	1	個人
44	H26.8.12	脇差	1	個人
45	H27.3.6	鈴木芳如関係資料	156	個人
46	H27.4.16	画幅「七福神」 他	2	個人
48	H27.8.4	わきざし 他	8	個人
49	H27.8.4	わきざし	1	個人

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
50	H28.6.29	袖がらみ 他	2	個人
51	H28.4.5	杉戸絵 他	10	国土交通省関東地方整備局国 営昭和記念公園事務所
52	H28.10.13	国府祭 鷺舞資料	一式	六所神社
53	H29.7.13	城山荘関係資料	57	個人
54	H29.10.26	招仙閣関係資料	26	東光院
55	H29.1.5	日本国憲法草案	2	個人
56	H30.9.9	生沢二宮家資料	一括	個人
57	R2.1.7	安田鞞彦宛吉田茂書簡	一括	個人
58	R2.3.31	七賢堂関連資料	17	平塚土木事務所
59	R3.9.30	中島湘煙書簡	1	個人

※寄託期間はNo.51以外、最長2年とし、2年以降は更新を行う。現在の寄託期間は、令和4年3月31日まで。No.51は明治記念大磯邸園全面開園の際に返却する予定であるため、寄託期間は令和6年3月31日まで。

<資料の館外貸出>

資料名	点数	利用目的	年月日	申請者
イタゴ	3	東京オリンピック ピックサー フィン競 技場(surf museum)に おける展示	R3.6.30～ R3.8.4	(株)グリーンルーム
アルミロープ 他	2	特別展示	R3.7.14～ R3.9.7	平塚市博物館
随神 他	4	高来神社夏 季例大祭	R3.7.16～ R3.7.21	南本町
堂後下横穴墓群 4号墓 太刀片 他	4	資料保存処理 委託	R3.10.7～ R4.3.11	(株)東都文化財保存研究所
馬場台34地点 土師器 杯・須恵器杯 他	12	馬場台地区 文化祭展示	R3.10.22～ R3.10.24	個人
ユタンポ 他	14	社会科「かわ る道具とくら し」の教材	R4.1.20～ R4.2.25	国府小学校
吉田茂肖像(清水崑画) 他	8	特別展示	R4.3 中旬～ R4.6 上旬	県立神奈川近代文学館

<資料の特別利用>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
研究・学術	1	2	2	2	1	3	
刊行物掲載	1	2	3	2	1	1	
放映・動画配信	0	0	0	0	0	0	
ウェブ掲載	0	0	0	1	1	0	
展示	0	0	1	1	0	2	
展示資料の撮影	3	6	11	2	3	0	
その他	1	1	0	0	0	0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研究・学術	1	0	2	0	0	3	17
刊行物掲載	3	3	2	4	1	5	28
放映・動画配信	0	0	1	0	0	1	2
ウェブ掲載	2	0	1	0	0	1	6
展示	0	0	1	0	0	3	8
展示資料の撮影	3	5	4	4	9	2	52
その他	0	0	0	0	1	0	3

■ 文献資料収集状況

<寄贈機関・関係団体リスト一覧>

《県内》

- [大磯町] エリザベス・サンダース・ホーム、大磯町、大磯ガイド協会、大磯町教育委員会、大磯町都市建設部都市計画課、大磯まちづくり会議、湘南アートベース
- [茅ヶ崎市] 茅ヶ崎市教育委員会、茅ヶ崎市文化資料館、茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団
- [秦野市] 野生動物救護の会、秦野市教育委員会
- [藤沢市] 江ノ電沿線新聞社、神奈川県立総合教育センター、湘南考古学同好会、日本大学生物資源科学部博物館、藤沢市教育委員会、藤沢市藤澤浮世絵館、藤沢市文書館
- [平塚市] 株式会社そうごう神奈川支店、平岡学園平岡幼稚園、平塚市博物館
- [伊勢原市] 伊勢原市教育委員会、雨岳文庫民権の会、公益財団法人雨岳文庫
- [寒川町] 寒川町教育委員会、寒川町史編集委員会
- [小田原市] 小田原市、小田原市教育委員会、小田原市郷土文化館、小田原史談会、小田原市立中央図書館地域コーナー、小田原城天守閣、神奈川県立生命の星・地球博物館
- [箱根町] 箱根ガラスの森美術館
- [山北町] 山北町地方史研究会
- [中井町] おもしろ体験博物館江戸民具街道
- [大井町] 大井町
- [横浜市] アカデミック・リソース・ガイド株式会社、アーク・フィールドワークシステム、岩崎博物館、馬の博物館、かながわ考古学財団、神奈川県教育委員会、神奈川県町村会、神奈川県博物館協会、神奈川県文化財課、神奈川県民俗芸能保存協会、神奈川県立神奈川近代文学館、神奈川県立公文書館、神奈川県立図書館、神奈川県立歴史博物館、神奈川文学振興会、公益財団法人かながわ国際交流財団、国分尼寺北方遺跡調査団、シルク博物館、JICA横浜海外移住資料館、玉川文化財研究所、鶴見大学博物館学芸員課程、日本郵船歴史博物館、馬事文化財団、睦合文化財株式会社、横浜都市発展記念館、横浜市ふるさと歴史財団、横浜市歴史博物館
- [川崎市] 川崎市市民ミュージアム、川崎市立日本民家園
- [鎌倉市] 鎌倉国宝館、鎌倉市教育委員会、かまくら春秋社、鎌倉文化研究会、鎌倉歴史文化交流館、鶴岡八幡宮社務所
- [横須賀市] 観音崎自然博物館、横須賀市自然・人文博物館
- [葉山町] 葉山しおさい博物館
- [厚木市] 厚木市教育委員会、厚木市教育委員会文化財保護課
- [座間市] 座間市教育委員会
- [相模原市] イビソク、相模原市教育委員会、相模原市立博物館、津久井城市民調査グループ、武相文化財研究所
- [海老名市] 相模考古学研究所

- [逗子市] 逗子市教育委員会
- [清川村] 丹沢自然保護協会
- 《 県外 》
- [茨城県] 稲敷市立歴史民俗資料館、土浦市立博物館
- [栃木県] 小山市立博物館
- [埼玉県] 埼玉県立川の博物館、税務大学校租税史料室、税務大学校和光校舎税務情報センター、ふじみ野市教育委員会、立正大学博物館
- [千葉県] 伊能忠敬記念館、木更津市郷土博物館金のすず、国立歴史民俗博物館、袖ヶ浦市郷土博物館、千葉県立中央博物館、千葉市立加曽利貝塚博物館、飛ノ台史跡公園博物館、船橋市教育委員会、船橋市郷土資料館、松戸市立博物館
- [東京都] 吾妻考古学研究所、板橋区教育委員会、板橋区立郷土資料館、岩田書院、NHK サービスセンター、樞出版社、大田区立教育委員会、大田区立郷土博物館、お札と切手の博物館、学習院大学学芸員課程委員会、葛飾区郷土と天文の博物館、株式会社トゥーヴァージンズ、株式会社 LIXIL、清瀬市郷土博物館、慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室、古今書院、駒澤大学博物館学講座、国際文化財、国立公文書館、サン・アート、品川区立品川歴史館、シナリオセンター、四門、集英社、昭和館、大成エンジニアリング、玉川大学教育博物館、中央区教育委員会、東京家政学院生活文化博物館、東京都江戸東京博物館、日本芸術文化振興会、日本女子大学、日本博物館協会、パスコ、日野市郷土資料館、日野市ふるさと文化財課、PHP 研究所、府中市郷土の森博物館、文化庁、法務局人権擁護局、堀文子記念館、堀文子ホルトノキの会、町田市教育委員会、町田市立自由民権資料館、港区教育委員会、港区立郷土歴史館、明治大学学芸員養成課程、靖国神社社務所、早稲田システム開発株式会社
- [静岡県] 伊豆の国市、伊豆の国市教育委員会、伊東市、伊東市教育委員会、玖須美財産区、静岡県立美術館、沼津市歴史民俗資料館
- [愛知県] 安城市歴史博物館、豊橋市美術博物館、豊橋市美術博物館友の会、豊橋市二川宿本陣資料館
- [山梨県] 環境省自然環境局生物多様性センター、南アルプス市教育委員会、甲斐市教育委員会
- [群馬県] 渋川市教育委員会、毛野考古学研究所
- [長野県] 茅野市教育委員会、茅野市文化財課文化財係、茅野市八ヶ岳総合博物館
- [新潟県] 十日町市博物館
- [三重県] 亀山市、亀山市歴史博物館、鈴鹿市考古博物館
- [和歌山県] 和歌山県立自然博物館、和歌山県立文書館
- [滋賀県] 草津宿街道交流館
- [大阪府] 大阪市立自然史博物館、国立民族学博物館、島田組
- [兵庫県] 人と防災未来センター、姫路科学館
- [京都府] スタジオ三十三、向日市文化資料館
- [奈良県] 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター
- [岡山県] 岡山民俗学会
- [広島県] 株式会社熊平製作所
- [高知県] 高知県牧野記念財団
- [岩手県] 奥州市牛の博物館、御所野縄文博物館
- [福島県] 白河市歴史民俗資料館、小峰城歴史館
- [青森県] 青森県立郷土館
- [北海道] 帯広百年記念館、沙流川歴史館、美幌博物館、美幌博物館活性化実行委員会
- [福岡県] 行橋市教育委員会
- [佐賀県] 有田町歴史民俗資料館
- [長崎県] 西海市教育委員会

■ ミニ企画展

ミニパネル展「吉田茂の愛犬たち」

期 間／令和3年4月2日（金）～9月30日（木）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため8月22日（日）まで開催

開場日数／118日間

会 場／旧吉田茂邸 展示・休憩室

観覧者数／6,338人

趣 旨／大の犬好きであった吉田茂には、犬にまつわる逸話も多く、出版物や回想録には犬に関する記述が度々見られる。また、吉田家より当館に寄贈された資料の中には、犬の写真だけを集めたアルバムが3冊ある。アルバムには犬の名前や日付が丁寧に書き込まれており、犬への愛情の深さがうかがわれる。今回の展示では、吉田茂のプライベートに不可欠な存在であった愛犬たちに焦点を当て、吉田の動物好きな一面を紹介する。

内 容／

(1) 吉田茂と犬

吉田茂の養母・土子は大の愛犬家であり、吉田茂自身も海外を飛び回る多忙な外交官時代より常に犬をそばに置いていた。また吉田の妻や子供たちも犬に慣れ親しんでいた。

(2) ケアン・テリア

サンフランシスコ講和条約調印の際に、吉田茂はつがいのケアン・テリアを連れ帰り、繁殖させた。それから13年後には、再びアメリカでつがいを購入している。犬のアルバムの添え書きや写真裏のメモをもとに、ケアン・テリアの血統図を作成し、吉田がお気に入りだったピッコロ、側近として戦後の吉田外交を補佐した岡崎勝男に譲ったローマ、伊藤博文の孫である藤井清子に送ったボビーなどを紹介する。

(3) シェパード

吉田茂は大磯の海岸をよく散歩していたが、その傍らにはいつもシェパードがいた。ここでは、映画やテレビで人気を博したタレント犬、シェーン・D・グランプリの子犬が吉田茂に譲られた話を取り上げる。映画「小説吉田学校」にはシェーンの子孫が出演した。このほか、白洲次郎にちなみジローと名付けられたシェパードの逸話や、小学5年生の長谷川桂子ちゃんに子犬を譲ったエピソードとその後の交流についても取り上げる。

関連企画／関連企画として、解説動画を4本作成し、ウェブサイトで公開した。会期中の再生回数は、4本の合計で344回であった。

(担 当) 久保庭・中原



ミニパネル展「別荘地大磯と吉田茂」

期 間／令和3年10月2日（土）～令和4年3月31日（木）

開場日数／145日間

会 場／旧吉田茂邸 展示・休憩室

観覧者数／9,837人

趣 旨／令和2年度旧吉田邸ミニパネル展示②「別荘地大磯と吉田茂」は、新型コロナウイルス感染症の感染予防による休館のため、当初予定していた会期より大幅な縮小を余儀なくされた。このため、再度展示をする。展示内容は、今後予定されている明治記念大磯邸園の全面開園への機運を高めるため、前回の展示をブラッシュアップする。

内 容／

(1) 別荘地大磯

別荘地大磯について概観する。海水浴場の開設に関わった松本順や、明治時代の照ヶ崎海岸、海水茶屋などを写真で紹介する。

(2) 明治政界の奥座敷

大磯に別荘や邸宅を構えた伊藤博文、大隈重信、陸奥宗光、山県有朋、西園寺公望らを紹介。特に、



伊藤博文の滄浪閣については詳しく説明する。

(3) 自由党土佐派

大磯町内には、陸奥や伊藤など政府首脳部だけでなく、自由党土佐派に属する人々の別荘もあった。後藤象二郎や中島信行と竹内綱、あるいは吉田健三とのつながりについて概観する。また吉田茂が耕余塾に入学した経緯に中島信行が関係していることについても言及。

(4) 吉田茂の和平工作とスパイの諜報活動

昭和戦前期に大磯で展開された吉田茂の和平工作と陸軍スパイの諜報活動について、和平工作関係者の紹介や、大磯町内におけるスパイ活動の拠点などを地図・写真を使って紹介する。

(担 当) 久保庭

ミニ展示「チャーチルと富士の絵」

期 間／令和4年1月5日(水)～3月31日(木)

開場日数／72日間

会 場／旧吉田茂邸 食堂

観覧者数／4,451人

趣 旨／吉田茂、安田靫彦、チャーチルの3人の交流に焦点を当て、関連資料とともにエピソードを紹介する。

内 容／吉田茂は、昭和29年首相として最後の外遊の際、イギリスのチャーチル首相と面会した。その際、チャーチルが日本の富士山が好きだという話を吉田が聞き、安田靫彦に富士の絵を依頼したというエピソードを紹介する。

(担 当) 久保庭

■ 講座

＜ウェブ講座 吉田茂の手紙を読む＞

期 日／令和3年6月2日(水)、7月2日(金)、8月3日(火)、9月1日(水)、10月1日(金)、11月2日(火)、12月1日(水)、1月6日(木)、2月4日(金)、3月3日(木)

趣 旨／新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、吉田茂邸と吉田茂についての理解を深めるためのウェブ講座を開催する。

内 容／郷土資料館が所蔵する吉田茂書簡のうち、吉田茂が谷口直枝子に宛てた手紙と内容を紹介する。旧吉田茂邸海千山千ブログにて連載記事を更新する。

時 期／令和3年6月から毎月1回更新(全10回)

更新ページ／旧吉田茂邸ホームページ「海千山千ブログ」

(担 当) 久保庭

■ 講演会

七賢堂特別開扉講演会「外交官としての吉田茂」

開 催 日／令和4年2月11日(金・祝)

場 所／県立大磯城山公園 旧吉田茂邸地区 管理休憩棟

講 師／防衛大学校・国際日本文化研究センター名誉教授

戸部良一 氏

参加人数／26人

趣 旨／県立大磯城山公園が主催する七賢堂特別開扉にあわせて、七賢堂に関する講演会を開催する。講演会を通じて、吉田茂と吉田邸を広く知ってもらうための機会とする。

内 容／県立大磯城山公園にある七賢堂を大磯の伊藤博文邸

から自邸の敷地に移築した吉田茂は、大正・昭和期の外交官・政治家である。本講演では吉田の外交官時代についてお話いただいた。吉田は外交において商人的な国際政治観を持っていた。吉田自身が「裏街道」と称した中国領事での勤務は、複雑な情勢下における当時の中国国内において、吉田の商人的国際政治観を強める経験となった。また、親英派であった吉田は、これを批判され後に官界を退くこととなるが、和平に向けた活動を続けた。以上のような外交官としての吉田の考え方は、敗戦後の日本を支えるものとなった。

(担 当) 久保庭・飯野・中原・鷹野



旧吉田茂邸建築講座・見学会

開催日／令和4年2月23日（水・祝）

場所／県立大磯城山公園 旧吉田茂邸地区 管理休憩棟及び旧吉田茂邸

講師／久保庭萌（当館学芸員）・NPO法人大磯ガイド協会

参加費／660円

参加人数／28人

趣旨／旧吉田茂邸利活用事業の一環として、県立大磯城山公園及びNPO法人大磯ガイド協会と連携し、旧吉田茂邸の建築についての知見を深めるための講座・見学会を開催する。

内容／講座では、旧吉田茂邸建物の変遷と特徴を、当時の写真を交えながら紹介。吉田邸建物の設計者である木村得三郎、吉田五十八がどのような増改築を行ったのかについても説明した。また、見学会では、吉田五十八の建築の特徴などを、実際に現地を見ながら紹介した。

（担当）久保庭・鷹野

■ 博物館資料の整備

< 収蔵資料整備 >

刀剣点検

業務内容／吉田家旧蔵資料のうち、刀剣「兼定」を点検した。

契約期間／令和3年11月4日

請負者／小野敬博

■ 調度品等の整備

< 調度品製作委託 >

旧吉田茂邸調度品製作委託

業務内容／当館所蔵の吉田茂書掛軸の複製を製作し、応接間棟2階書斎に設置する。

契約期間／令和3年6月22日～12月10日

請負者／ナカシャクリエイティブ（株）東京支店

■ 刊行物

< 邸内配布物 >

・伊藤博文掛軸解説文

A4判両面 10,000部（令和3年6月刊）

< チラシ・パンフレット >

・講演会『外交官としての吉田茂』チラシ

A4判片面 500部（令和4年1月刊）

■ 視察・見学対応

< 視察・見学の月別件数 >

単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視察	2	0	1	1	0	0	2	4	1	2	0	0	13
見学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

※令和3年7月3日は大雨のため、8月24日から9月30日までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

< 視察対応 >

・国土交通省大臣政務官・秘書官／4月19日／2人（國見）

・国土交通省都市局長・審議官／10月27日／2人（北水）

・国営昭和記念公園事務所／11月4日／2人（北水）

・島根県美郷町／11月16日／3人（久保庭）

・国営昭和記念公園事務所／11月25日／5人（北水）

・産業能率大学／11月29日／4人（北水）

■ 取材対応

< 刊行物 >

・シナリオ・センター生徒向け月刊誌『月刊シナリオ教室』2021年8月号「シナリオライターのためのお役立ち情報 旧吉田邸」（久保庭）

・樞出版社『湘南スタイル』令和3年6月25日発行（久保庭・富田）

- ・ P H P 出版社発行の雑誌及び書籍「吉田茂を題材とした小説(タイトル未定)」令和 5 年頃発行予定(久保庭)
- ・ 『LIXIeye (リクシルアイ)』「建築の街を旅する：大磯」令和 4 年 1 月 20 日発行予定 (久保庭)
- ・ タウンニュース 令和 3 年 10 月 22 日掲載「実父からの書簡を初公開」(久保庭)
- ・ 朝日新聞 令和 4 年 1 月 15 日掲載「七賢堂講演会の紹介」(久保庭)
- ・ (株) J T B パブリッシング『大人の休日帰り首都圏 2023』令和 4 年 2 月発行予定 (久保庭)
- ・ (株) J T B パブリッシング『大人の遠足 B O O K』令和 4 年 3 月発行予定 (久保庭)
- ・ 東京書籍『目で見る歴史』令和 4 年 7 月発行予定 (久保庭)

<テレビ>

- ・ ケーブルテレビ『ワイド情報カフェ湘南館 (令和 4 年 3 月 1 日初回放送)』「旧吉田茂邸建築講座・見学会の紹介」(久保庭)

<ウェブサイト>

- ・ 『Navi Time Travel』令和 3 年 10 月 14 日取材 (久保庭)

■ レファレンス対応

- ・ 令和 3 年 4 月 8 日 吉田茂と大島渚について／NHK 国際放送局 (久保庭)
- ・ 令和 4 年 3 月 2 日～3 月 3 日 澤田廉三宛吉田茂書簡の翻刻／澤田美喜記念館 (久保庭)
- ・ 令和 4 年 3 月 8 日～3 月 24 日 吉田茂に関する映像資料の所在について／テレビ朝日アーカイブ運用センター (久保庭)

学芸員の調査、研究、普及活動

<通年の活動>

- ・ 神奈川県博物館協会理事／年間 (國見)
- ・ 東海地区博物館連絡協議会役員／年間 (國見)
- ・ 駒澤大学博物館学講座／年間 (國見)

<庁内事業への協力>

- ・ 新採用職員研修講義／令和 3 年 4 月 14 日／大磯町保健センター (國見)
- ・ 鳴立庵展示ケースの展示／令和 3 年 7 月 17 日、11 月 30 日 (富田)
- ・ 青少年指導員連絡協議会自主事業「ナイトミュージアム&ハイク」／令和 3 年 7 月 31 日(北水・村田)
- ・ 港湾管理事務所展示スペースの展示／令和 3 年 11 月 24 日 (高山・村田)

<学校教育との連携>

郷土資料館の見学・学習指導

講義名	月日	場所	担当
聖ステパノ学園小学校 3・4 年生遠足	5 月 11 日	郷土資料館	—
大磯小学校 3 年生遠足	5 月 18 日	郷土資料館・旧吉田茂邸	—
こいそ幼稚園園外保育	5 月 18 日	郷土資料館	—
大磯小学校 1 年生遠足	5 月 27 日	郷土資料館	—
大磯小学校 3 年生遠足	11 月 12 日	郷土資料館	—
花・もんもん保育園遠足	11 月 19 日	郷土資料館	—
国府中学校 2 年生担当教諭に対する江戸時代の地域資料の活用案内	11 月 24 日	郷土資料館	富田
私塾まきば遠足	11 月 26 日・ 2 月 9 日	郷土資料館	—
二宮めぐみ幼稚園遠足	12 月 7 日	郷土資料館	—
大磯中学校 1 年生校外学習	2 月 25 日	郷土資料館・旧吉田茂邸	—

学校等への講師派遣

講義名	月日	場所	担当
国府小学校 3 年生総合学習 「たくさん知りたい大磯町」	5 月 27 日	国府小学校	富田・村田
大磯小学校 4 年生総合学習 「大磯 GREENSCHOOL」	9 月 22 日	大磯小学校	村田
大磯小学校 3 年生総合学習「見つけた！大いそ」	9 月 30 日・ 12 月 3 日	大磯小学校	富田・久保庭・ 村田
国府中学校 1 年生総合学習 「大磯・国府地域調べ」	10 月 22 日	国府中学校	國見・久保庭・ 村田
大磯小学校 1 年生生活科「あきとなかよし」	10 月 29 日	大磯小学校	北水・村田
大磯中学校 1 年生総合学習「大磯の海の生態系」	11 月 30 日	大磯中学校	北水
大磯中学校 1 年生総合学習「大磯の地域学習」	3 月 4 日	大磯中学校	久保庭

<各種団体との連携・協力>

各種団体への講師派遣

講義名	月日	場所	担当
N P O 法人大磯ガイド協会「歴史教育研修会」	10 月 3 日	郷土資料館	鈴木
大磯の邸園巡り講話「大磯町の歴史文化について」	11 月 26 日・27 日	町立図書館	北水
博物館講演会「市民が築く博物館」	2 月 12 日	小田原市生涯学習センター	富田
令和 3 年度 O I S O 学び塾Ⅳ 「文化財ウォーク・大磯の天然記念物その 1」	3 月 19 日	生涯学習館・町内	北水

<学会・研究会との連携>

研修会・会議出席等

名称	月日	場所	担当
令和 3 年度神奈川県博物館協会第 1 回役員 会・総会	5 月 21 日	県立歴史博物館	國見
令和 3 年度神奈川県博物館協会第 2 回役員 会	12 月 2 日	県立歴史博物館	國見

<執筆>

國見 徹

2022. 3. 「陶人舎の汽車土瓶」『考古学論究』第 22 号 立正大学考古学会

北水 慶一

2022. 3. 「旧滄浪閣ホール棟と西園寺公望別邸跡・旧池田成彬邸を大磯町指定有形文化財に指定」
『Report - 大磯町郷土資料館だより』42 大磯町郷土資料館

富田 三紗子

2021. 8. 「地域博物館における戦時資料の収集と展示」

『ライブラリー・リソース・ガイド』第 36 号 2021 年夏号 アカデミック・リソース・ガイド

2021. 9. 「例規から見る 47 都道府県の公文書管理の現状と課題」

『全史料協関東部会会報 アーキビスト』No.96 全史料協関東部会

2021. 10. 『資料と証言に見る大磯と戦争』大磯町郷土資料館

2021. 11. 資料館資料 20 『大磯町助役日誌（大正六年一月～一二月）』大磯町郷土資料館

2022. 1. 「嶋立庵と『つながり』をもった俳人の地域的な変化」

『近世地域史研究の模索 - 「つながり」の視点から -』小田原近世史研究会編 岩田書院

2022. 3. 大磯町文化財調査報告書第 52 集『大磯宿小島本陣資料 御大名衆帳 正保三年より』
大磯町教育委員会

2022. 3. 「大磯 鍋島邸の領収証」『Report ー大磯町郷土資料館だより』42 大磯町郷土資料館

久保庭 萌

2021. 8. 「【資料紹介】吉田茂宛竹内綱書簡（続）」『年報ー令和 2 年度ー』 大磯町郷土資料館

2021. 10. 『資料と証言に見る大磯と戦争』 大磯町郷土資料館

2022. 3. 「書評と紹介 渡邊佳子著『近代日本の統治機構とアーカイブズー文書管理の変遷を踏まえてー』」『記録と史料』全国歴史資料保存利用機関連絡協議会

鈴木 一男

2022. 3. 「煉瓦造の鉄道橋梁について～押切架道橋の建設時期と経緯～」

『Report ー大磯町郷土資料館だより』42 大磯町郷土資料館

中原 園子

2022. 3. 「ミニパネル展示『吉田茂の愛犬たち』」

『Report ー大磯町郷土資料館だより』42 大磯町郷土資料館

鷹野 真子

2022. 3. 「戦後の吉田茂と親族の交流」

『Report ー大磯町郷土資料館だより』42 大磯町郷土資料館

研 究 報 告

なお、本稿では、小田原藩領の広さや里程に関する情報など、紙幅の都合で割愛した記述もある。また、大久保家資料には、他にも小田原藩に関する未活用の新出史料があるため、今後の調査研究が待たれる。

謝辞

本稿において調査対象とした大久保家資料は、大久保忠旦氏の御厚意によって、当館に御寄託いただいた史料である。また、本稿執筆にあたっては、小田原市立中央図書館の下重清氏に、史料情報などについて御教示いただいた。記して感謝申し上げる。

注

- (1) 「覚書」(大磯町郷土資料館寄託資料「大久保家資料」一〇五)。なお、享保三年作成の原本は確認できなかった。なお、「藩」という文字は、「覚書」作成時点では用いられていなかった用語であるが、便宜上、本稿では「小田原藩」という表記で統一する。
- (2) 小田原市編『小田原市史 別編 城郭』(小田原市、一九九五)六二八頁。「現成院様御覚書」の一部が翻刻掲載されている。
- (3) 下重清「田中休愚以前―享保改革期における小田原藩の酒匂川普請」(『小田原地方史研究』二四号、二〇一七)。
- (4) 小田原市編『小田原市史 通史編 近世』(小田原市、一九九九)三四二頁。
- (5) 堀田正敦等編『新訂寛政重修諸家譜 第十一』(続群書類従完成会、一九六五)三三九～三四三頁。
- (6) 下重清『小田原藩』(現代書館、二〇一八)七六～七八頁。
- (7) 貞享三年の領知目録については、前掲、『小田原市史 通史編 近世』

三四一～三四二頁を参照。

- (8) 前掲注(4)、『小田原市史 通史編 近世』三四一頁。
- (9) 引用史料のうち「北条家之節之城ハ今之城地続後、西山手の方へかけ、曲輪部相見へ申候」以外は、「現成院様御覚書」に無い記述である。
- (10) 丹治健蔵『東海道箱根関所と箱根宿』(岩田書院、二〇一九)一二八～一二九頁。
- (11) 神奈川県民部県史編集室編『神奈川県史 通史編二 近世(一)』(神奈川県、一九八二)二八二頁。
- (12) 前掲注(2)、『小田原市史 別編 城郭』二八四～二八五頁。
- (13) 現地案内板にて確認。

ていないが、女性の検分を行う人見女という番人もおり、人見女は定番の妻が担当することが多かった。定番も人見女も扶持米をもらって実務を手伝った。

定番以外は小田原藩から派遣された人員で、侍とその長である者頭が番士である。目付は箱根関所において、その業務を監察する役職である。足軽は門番など箱根関所の警備を行う役職である。

百姓一揆の発生や將軍の死去など非常事態が生じた場合、関所は一時的な増員が行われる。箱根関所では「増番者頭已下侍拾五人、足軽四十人」を「家老一人先右之人数召連、早速御関所へ相詰候」ことになっている。つまり、小田原藩の重役である家老が侍を引き連れて、箱根関所の警備に駆けつけるといふことである。根府川関所では「増番者頭已下侍九人、足軽拾五人」を「番頭之者老人右人数召連、早速御関所へ相詰候」ことになっている。矢倉沢関所他三か所では「増シ番一口へ物頭老人、侍六人、足軽拾人ツゝ」派遣することになっている。

なお、箱根関所以外の関所では、「村々郷足軽有之候二付、左様之節ハ下知次第関所へ相詰候」とある。郷足軽とは、山間村で狩猟を糧として生活するため、鉄砲所持を許可されている百姓を指す¹⁾。つまり、非常時の際には、郷足軽を関所の番として召集することができるという意味である。

八 史跡や名所

「覚書」には、これまでみてきたような藩政にかかわる記述の他、小田原藩領内の史跡や名所に関する記述もある。ここでは、「現成院様御覚書」に記載がない「御陣場」と「湯場」を紹介する。

天正一八年（一五九〇）の豊臣秀吉による小田原征伐に参陣した際の徳川家康の「御陣場」に関して、次のような記述がある。

権現様〔徳川家康〕御陣場之由、相州足柄下郡今井村之内二東西九拾間、南北百弍拾間之屋敷、名主市郎左衛門と申者二被下置諸役免許被仰付、尔今名主抱二而罷在候、右之場所城元方半道程

今井村とは、小田原市寿町四丁目位置する今井権現神社の辺りを指す。「覚書」では、陣場とした屋敷を東西九〇間（約一六三m）、南北一二〇間（約二一八m）としている。この数値は『小田原市史』の記述と一致している²⁾。屋敷の所有者である市郎左衛門は、諸役を免除されたうえで、以降名主役を務めたとある。

現在、今井権現神社の境内には、小田原市指定重要文化財「徳川家康陣地跡の碑」が建つ。碑文は小田原藩七代藩主大久保忠真の作で、天保七年（一八三六）に藩士に命じて建てたものである³⁾。

「覚書」には、温泉地「湯場」に関する記述もある。小田原藩領内の「湯場」として、相模国に湯本村、塔沢村、底倉村、宮ノ下、堂ヶ嶋、木賀、伊豆国に松原村、和田村、熱海村とある。相模国の六つの「湯場」は、江戸時代当時に呼称されていた箱根七湯に含まれている。なお、箱根七湯の残りの一つは芦ノ湯である。

伊豆国の松原村と和田村は、現在のJR伊東駅周辺にある温泉街である。伊東大川を挟んで北が松原温泉、南が和田温泉となる。熱海温泉については、「御代官所湯場」として記されており、湯治の際は根府川関所での通行人改めを受ける必要があった。

九 おわりに

以上、「覚書」の記述を参照し、享保三年ごろの小田原藩をみてきた。各種の情報量は小粒ながらも、小田原城や関所などについては興味深い内容が記されているため、「覚書」が小田原藩研究に資するものと考えられる。

なお、文末の「北条家之節之城」は、現在の八幡山古郭を指すと考えられ、小田原城から西山手の方にその曲輪部分を確認できるといふことである。また、「覚書」にある「〇〇年以前」は、明和四年から逆算した年数である。

七 関所

小田原藩領内には、東海道の箱根関所、「豆州東浦道〔熱海道〕」の根府川関所、箱根裏街道の仙石原関所、矢倉沢往還の矢倉沢関所、駿河道の川村（河村）関所と谷ヶ村（谷岬村）関所の六つの関所が設けられていた。その内、箱根関所と根府川関所は「公義御留守居支配」である。「公義御留守居支配」とは、幕府の御留守居が通行手形を発給する関所を意味する。箱根関所における業務については、次のように説明している。

登り女其外、手負、囚人、乱心者等御留守居手形差出候分、条目有之手形無御座候而ハ相通不申候、惣而左之旅人登り之分ハ行を承届相通シ申候、末々之者ハ、主人又ハ家来、役人之手形、町人百姓ハ其所々名主、大屋等之手形、致持参候者多御座候、又手形持参不仕者も御座候、左様之者ハ別而念を入相改通申候、其内欠落取逃等仕候哉と疑敷存候者ハ差戻申候

下り旅人之儀ハ、女其外共二一切不及改相通申候、且又登り下り共二武具改無御座候、然共常二替り何とそ不審之躰有之候者、押置早速注進仕候様ニと申付置候、往来之旅人夜中ハ一切相通シ不申候、御用之節ハ老中方之證文持参ニ而相通シ申候

現在とは異なり、「登り」とは京都へ向かうことを指し、「下り」とは江戸へ向かうことを指す。登りの通行人については、「女其外、手負、囚人、乱心者等」は手形が無いと通さないとしている。「末々之者」は「主人又ハ家来、役人之手形」が、「町人百姓」は「其所々名主、大屋等之手形」

が必要であるとしているが、「手形持参不仕者」でも入念に取り調べをし、たうえで通している。ただし、「欠落取逃等」の疑いがある者に関しては通行を許可しなかった。

一方、下りについては「女其外、手負、囚人、乱心者等」であっても、改めること無く関所を通して行っている。また、「武具」の改めは、登りでも下りでも行っていない。

根府川関所における業務については、次のように説明している。

熱海へ湯治之節、大小名持セ候、弓九張迄ハ相通申候、鉄炮之儀ハ前以私方へ直二改承届、九挺迄ハ相通シ申候、右之数多クハ相通シ不申候、此段ハ前々右之通相改来申候

根府川関所における取り締まりでは、弓は九張、鉄砲も九挺までとし、それ以上は通さなかったとしている。なお、明和九年の段階では、公儀の証文があれば弓九張、鉄砲九挺以上でも通行を許している¹⁰⁾。享保三年以降に、根府川関所における取り締まりが緩和されたと考えられる。

仙石原関所、矢倉沢関所、川村関所、谷ヶ村関所では、「公義御役人方手形出不申候」とあり、手形を発行する形で通行人の取り締まりを行っていないことがわかる。

関所の番人については「不残小田原方遣置申候」とあり、小田原藩から人員を派遣して業務を行わせていた。「覚書」には、各関所の番人の人数について【表二】の通りに記載されている。

【表二】の内、定番が関所における実務を担うが、武士身分ではなく、関所の近辺に住む百姓であった。また、【表二】には記され

【表二】 各関所の番人の人数

関所名	者頭	定番	目付	足軽	侍
箱根	1	3	1	15	3
根府川	1	3		5	2
矢倉沢					
仙石原		2~3		2~3	2
川村					
谷ヶ村		2~3		2~3	1

合百五十一ヶ村」となっている。享保三年当時の小田原藩領と石高については【表一】の通りである。なお、参考として享保三年より約三〇年前の貞享三年の領知目録を併記する。^⑦

【表一】小田原藩領の比較

		貞享3年(1686)		享保3年(1718)	
国名	郡名	村数	石高	村数	石高
相模	足柄上・足柄下・ 淘綾・高座	162	50,826.312	152	50,826.312
駿河	駿東	70	12,317.796	79	12,317.796
伊豆	賀茂	17	4,067.296	18	4,067.296
下野	芳賀	22	16,671.409	21	16,671.409
播磨	印南・加西・多可	54	19,246.257	55	19,246.257
河内	交野・讃良・茨田	—	—	26	10,000.000
合計		325	103,129.070	351	113,129.070

なお、「覚書」には替え地となった「御代地」の記述もあるが、その郡の数や石高は空欄となっている。

六 小田原城について

小田原藩の中心である小田原城については次のように説明している。^⑧

「覚書」にある領知目録は、「本領」と記載があるため、宝永四年の富士山噴火の際に替え地として幕府から与えられた代替地は含まれていないと考えられる。また、河内国三郡二六村は元禄七年に加増されたものであるため、貞享三年の所領には含まれていない。^⑧その他、貞享三年から享保三年にかけて、村数に多少の変動がある。

「覚書」には小田原藩の「本領」の他、「新田改出シ」として「高壱万千八百式拾石七斗九升五合」の存在が記されている。そのため、享保三年当時の小田原藩の実際の石高は、一二万四九四九石八斗六升五合であったことがわかる。

相州足柄下郡早川庄

一、小田原城 平山城 江戸の坤当

東八平地酒匂川、西八箱根山、南八海、北八大山之方山続キ

北条家之後、大久保七郎右衛門、同相模守、阿部備中守、其後御番城近藤石見守、同登之助、大田原備前守在番、百三十六年以前、寛文〔寛永〕九申年、稲葉故丹後守拝領城繩張仕置、翌年従公義御普請被仰付候由、其以後稲葉美濃守、同丹後守、八十二年以前、貞享三寅年、先大久保加賀守拝領仕、曾祖父加賀守相統拝領仕候、六十五年以前、小田原大地震之節、櫓、塀、石垣、土手、門不残崩、其上出火在之、本丸、二ノ丸焼失仕候二付、曾祖父加賀守、其節御改申上段々如元普請仕候、裏手之方塀少シ残置候二付、普請成就之御届未不申上候裏手之塀成就享保六辛丑年極月、御城成就之届有之候、但寛文〔寛永〕九申年享保三戌年迄八十七年也

北条家之節之城ハ今之城地続後、西山手之方へかけ、曲輪部相見へ申候

小田原城は相模国の戦国大名北条氏の本拠であった後、大久保忠世、大久保相模守忠隣、阿部備中守正次が城主を勤めた。その後、臨時の城主である城代として、近藤秀用らが入城した。寛永九年、稲葉丹後守正勝が小田原に入部、小田原城の「繩張仕置」を行った。続いて、稲葉美濃守正則、稲葉丹後守正通が藩主を勤め、貞享三年に大久保加賀守忠朝が小田原に入部する。

元禄一六年、大地震によって小田原城は崩壊焼失する。藩は小田原城の復興に尽力するが、享保三年時点では「裏手之方塀」の修復が完了していないため、「普請成就之御届未不申上候」としている。この「裏手之方塀」の修復が完了するのは、享保六年一二月になってからである。

大久保忠方は元禄五年（一六九二）六月一五日に生まれ、享保一七年一〇月三日に没する。藩主在任期間は、正徳三年（一七一三）九月一二日から没年月日までである。

二つの「現成院様御覚書」の内容はほぼ同一で、その構成は小田原城の構造、備蓄米、武具、関所、箱根湖（芦ノ湖）、領内古城跡、里程、軍役、小田原周辺の名所、小田原城の設備（門や橋など）、元禄一六年の元禄地震、大銭通用に関する寛永五年（一六二八）の触書、となっている。

一方、「覚書」の構成は、大久保家歴代当主および徳川將軍家の系譜、領知目録、備蓄米、小田原城の構造、武具、関所、箱根湖、領内古城跡、里程、軍役、小田原周辺の名所、温泉地などである。

享保三年に作成され明和四年に筆写された「覚書」と享和二年や文政六年に筆写された「現成院様御覚書」を比較すると、小田原城の構造や武具など、内容が同一の箇所がいくつかある。さらに、記述の順番や武具の数量などもほとんど同じであるため、「覚書」と「現成院様御覚書」は同一の原本から筆写されたことがわかる。

つまり、「覚書」は、現成院すなわち大久保忠方が享保三年に作成した文書を明和四年に筆写した史料ということになる。同時に、「現成院様御覚書」の原本は享保三年に作成されたことがわかる。

ただし、「覚書」には「現成院様御覚書」にある元禄地震に関する詳細な記述や寛永五年の触書の記述が無く、一方、「現成院様御覚書」には「覚書」にある大久保家の系譜や領知目録に関する記述が無い。

「現成院様御覚書」が大久保忠方作成の原本をそのまま筆写したのであれば、「覚書」はその原本の情報を取捨選択して筆写し、さらに必要な情報を書き加えたものと考えることができる。

四 大久保家歴代当主

「覚書」の冒頭は、歴代の大久保家当主に関する記述である。「寛政重修諸家譜」によれば、大久保家の出自を藤原氏道兼流として、はじめは宇都宮氏を称していたとしている⁵。南北朝期に宇都宮泰藤という者が三河国上和田に住み、その曾孫にあたる宇都泰昌（宇都宮より改姓、後に宇津に改姓）から、徳川氏の祖である松平氏に仕え始めたとされる。その数代後の宇津忠俊から、大久保氏を名乗るようになった。ただし、大久保一族の由緒には不明な点が多く、今後も史料の発掘や検証が必要になる。

徳川家康の関東移封に伴い、小田原に入部して初代小田原城主となった大久保忠世は、大久保忠俊の弟である大久保忠員の子である。大久保忠世の子で二代城主の大久保忠隣は、慶長一九年（一六一四）に讒訴によって改易となる。大久保忠隣の孫の大久保忠職は、父大久保忠常の跡を継いで武蔵国騎西に二万石を領有していたが、幼少のため厳罰を免れた。その後、大久保忠職は美濃国加納、播磨国明石、肥前国唐津と転封を重ね、唐津にて没する。その後継の大久保忠朝は、唐津より下総国佐倉へと転封になり九万三千石を領する。さらに、大久保忠朝は、大久保忠隣以来の老中職にも復帰すると共に、貞享三年（一六八六）に小田原藩への復帰を果たす⁶。以降、藩主は忠増、忠英（忠方）、忠興、忠由と継承される。なお、「覚書」にある大久保家の系図には、「覚書」の原本が作成された享保三年以降の藩主である忠興や忠由に関する記述もある。これらの記述は、明和四年に筆写した際に加筆されたものであることがわかる。

五 享保三年当時の小田原藩領

「覚書」には、享保三年当時の小田原藩の領知目録が記されている。領知の合計は「高拾壹万石三千百貳拾九石七升」で、「郡数合十三郡、村数

大久保家資料「覚書」にみる小田原藩

伊藤 匠（当館学芸員（会計年度任用職員））

一 はじめに

本稿は、大磯町郷土資料館（以下、当館）が保管している「大久保家資料」より、享保三年（一七一八）に作成され、明和四年（一七六七）に筆写された小田原藩に関する「覚書」を紹介するものである。^①

「大久保家資料」は、小田原藩の家老職を務めた大久保家（隅の大久保家と称される）が収集作成した資料群で、所有者である大久保忠旦氏より寄託を受けている。現在、江戸期より昭和期にかけての資料約六〇〇点を当館にて整理保存している。

本稿で扱う「覚書」は、享保三年時点の小田原藩の藩領、小田原城、閑所など各種情報を記載した史料である。ただし、こうした「覚書」の内容は、小田原市立中央図書館が所蔵する一九世紀前半に筆写された「現成院様御覚書常御懐中被遊候由」（以下、「現成院様御覚書」）にも、同じように記されている。^②

しかし、「覚書」と「現成院様御覚書」とでは作成年代が一〇〇年近く異なることや、「現成院様御覚書」には無い記述がいくつか「覚書」に記載されていることをふまえれば、「覚書」にはこれまで知られていなかった小田原藩の情報が記されていると考えることができる。

そこで本稿では、「覚書」作成の時代背景を整理した後、その内容について「現成院様御覚書」と比較しつつ紹介し、小田原藩の新たな一面に触れることとする。

なお、本稿では史料の引用に際し、必要に応じて読点を加えた。また、「」は引用者による注である。

二 「覚書」作成の時代背景

「覚書」の原本が作成された享保三年当時の小田原藩は、宝永四年（一七〇七）に起きた富士山噴火による被災から立ち直りつつある状況にあった。富士山噴火を受けて、小田原藩は被害の大きい所領の替え地を幕府に認められていた。享保元年になると、幕府による酒匂川の堤普請が中止になった関係で、替え地の一部が小田原藩に復帰した。^③所領が本格的に藩領に復帰するのは、延享四年（一七四七）になってからである。^④

以上より、享保三年に作成された「覚書」は、享保元年の替え地の一部復帰を受けて、藩内の状況を整理するために作成された可能性を考えるとができる。

「覚書」は明和四年に筆写され現在にまで残されているが、明和四年に筆写した理由は「覚書」に明記されていない。ただし、「覚書」の文末に、「右御覚書、享保三戊戌年出来之由、明和四丁亥年九月写、之仍右戌年方五十年ニ成ル」とあるため、「覚書」作成から五〇年経過したことを受けて、文書の保存のために筆写したものと考えることができる。

三 「現成院様御覚書」との比較

現在、小田原市立中央図書館には二つの「現成院様御覚書」が保管されている。「覚書（現成院様御覚書常御懐中被遊候由、写）」（旧宇佐美達氏所蔵文庫一五）と「現成院様御覚書常御懐中被遊候由 忠方公」（小田原有信会文庫二〇）である。

前者は、享和二年（一八〇二）に「近藤氏〔名前不明〕」によって、後者は、文政六年（一八二三）に岡本弥太郎という人物によって筆写されている。いずれも原本は不明である。「現成院様」とは、小田原藩三代藩主大久保忠方（「覚書」では忠英と表記される）である。

年 報

令和 3 年度

◇ 令和 4 年 8 月 5 日発行

◇ 編集・発行

大磯町郷土資料館

〒 255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1

TEL 0463(61)4700 FAX 0463(61)4660